

[6] 岩国市中心市街地活性化の基本方針

(1) 岩国市における中心市街地活性化の必要性

岩国市は終戦後、近隣の市町と一体的に石油コンビナートを中心とする工業都市として発展した。しかし、社会情勢の変化や景気の影響などを受けて、合併後も人口は減少し続けている。また、高齢化率も増加し続けており、車社会の進展により、日常生活に必要な食料品や日用品も郊外型の大規模な店舗などに移行した。

このまま何もしなければ、高齢化の波が押し寄せ、街の衰退とともに、岩国市は高度成長期などに開発された高台団地が多いこともあり、近い将来、高齢者等をはじめ多くの市民にとって、日常生活を維持することに支障を来たしはじめることが予想される。

このような事態を避けるためには、中心市街地などに高齢者の居住環境を整え日常生活が支障なく継続できるよう、コンパクトな街づくりを目指し、生活のインフラや店舗を維持するために、中心市街地の賑わいを取り戻し、低炭素化も踏まえた街づくりを検討するべきである。

一方、岩国市の中心市街地を交通結節点としてみた場合、道路面では主要幹線である国道2号、国道188号の交差点であり、広島、周南、柳井方面へとつながる分岐点となっている。さらに山陽自動車道のICが岩国、玖珂と2箇所あり、加えて岩国駅から車で20分のところに大竹ICがある。将来、この大竹ICと岩国市街地を結ぶ「岩国大竹道路」が開通した際には広島―岩国間がさらに時間短縮される。このように中心市街地からの陸上運送や車での移動において、高い利便性を有していると言える。

鉄道面では岩国駅は山陽本線のほかに岩徳線、錦川清流線と接続しており、電車、バスといった交通機関の要衝の地となっている。また、山陽新幹線の駅である新岩国駅もあり、新岩国駅の次駅である広島駅、徳山駅への所要時間は約15分である。

本市には国の重要港湾であり、また重点港湾にも選定された岩国港が岩国駅から車で10分程度のところにある。岩国港は世界につながるネットワークとして、アジア地域へ5航路、国内は3航路を有しており、岩国市及び近隣市町に存在する石油コンビナートや化学工場などの貨物輸送の多くを担っている。

平成24年12月には市民の長年の悲願であった米軍基地との軍民共用空港である岩国錦帯橋空港が開港し東京と約90分で結ばれた。現在の米軍岩国基地の滑走路は全長約2,500mで平成22年に防衛省により旧滑走路から1km沖合に移設された。運航便は岩国―羽田間を1日4往復、開港後1年間の搭乗率は約7割と非常に好調で、周辺100km以内に空港が無い空港空白地帯であったことや岩国駅と約2.5kmと全国でもめずらしい街なかにあることが要因であると考えられる。

このように岩国市は岩国駅を中心として「陸・海・空」と高速交通を含むすべての交通施設がそろった、まさに瀬戸内の交通拠点都市となりうる高いポテンシャルを秘めている。

次に人の流動面においては、岩国駅や空港を中心として次のような流れが存在している。

- ・岩国から政令指定都市である広島市などに通勤する人（電車で約1時間）
- ・岩国駅東側湾岸地帯から大竹市までの工場関係者の駅や空港利用
- ・世界遺産である広島県の宮島（電車で約20分）や錦帯橋などへの観光旅行者
- ・政令指定都市である広島市に立地する企業関係者の駅・空港利用

- ・岩国市の米軍基地関係者（約5千名）の岩国駅周辺や広島などでの飲食や買い物

このような人の流れがあるが、特に岩国錦帯橋空港が開港したことにより、岩国市をはじめ、山口県東部の近郊の市町や広島県西部の人たちの利用による新たな人の流れができつつある今こそ岩国駅周辺ににぎわいを取り戻す千載一遇のチャンスでもあり、あわせて岩国駅を中心とした中心市街地の活性化を図ることが岩国市の発展につながるものである。

（２）中心市街地の場所

車社会の進展と郊外型大規模小売店舗の進出により、商店街の集客力が低下し、かつてのにぎわいはなくなり活力を失いつつあるものの、ＪＲ山陽本線の岩国駅を中心とした本市の中心市街地は、市役所や郵便局、銀行、商店、食料品店、各医院など公共施設から生活に必要な店舗や施設が集積しており、上下水道など都市基盤が整っている。

したがって、居住者をはじめ市内外から訪れる人、ビジネス・観光など多くの人に訪れてもらい活性化を図りにぎわいを取り戻すには、ＪＲ岩国駅を中心とした市街地において既存ストックの利活用や既存施設のリニューアルを行い、老朽化した施設を補修するなどして、多くの人に立ち寄ってもらえるよう魅力的な店舗をそろえたり、既存店舗を改修するなどしてにぎわい創出を実現することが効率的であり、ＪＲ岩国駅を中心とした地域が適地であると考えている。

（３）上位計画との整合性

中心市街地活性化基本計画の上位計画である「岩国市都市計画マスタープラン」（平成23年3月策定）では、岩国駅周辺については、「交通結節機能の強化を図るとともに、東西市街地の一体化を推進する」「魅力ある中心商店街づくりを推進し、にぎわいのある中心市街地の形成を図る」としている。

平成26年9月に策定された岩国市総合計画においては、岩国駅周辺の中心市街地活性化について、「魅力的でにぎわいあふれた中心市街地となっている」という施策目標を掲げ、現状と課題において「岩国駅周辺には都市基盤施設が比較的充実している」、「これまで蓄積し、優先的に整備してきた都市施設等を有効に活用する」、「高齢者にとっても居住しやすい環境整備を目指す」などが挙げられており、基本方針に「中心市街地を活性化し、にぎわいのある都市拠点の形成を図るため、魅力ある商業空間を創出し、交流の場づくりを進めるとともに、高齢者をはじめ多くの人々が住みよい環境づくりを進めます」とうたっている。

交通面においては、施策目標として、「多様なニーズに対応した交通基盤が整っている」を掲げ、県境を越えた広域的な交通需要があることや国道2号、国道188号の主要幹線や空港、港湾、新幹線、都市間鉄道、都市内鉄道、バスといった多様な交通機関が存在する15万人規模の都市にしては稀であるとしてこの特長を活かしていくことをうたっている。

以上のように上位計画においても、岩国駅周辺の中心市街地の活性化についてはもちろんのこと、来たる高齢化社会への対応や温暖化防止に向けた施策の実施についても記載されており、本計画においてもこれらのことを踏まえて策定するものである。

(4) 中心市街地活性化の基本テーマ

岩国市中心市街地活性化協議会において協議されるなか、岩国市の中心市街地を活性化するにあたり、以下に示すフレーズを基本テーマに掲げることで進めてきた。

基本テーマ

「県東部の中核都市にふさわしい
『多くの人が集まり、楽しく暮らせるにぎわいのあるまちづくり』」

(5) 中心市街地活性化に向けた基本方針

以上を踏まえて、本市の中心市街地の現状分析から導き出した課題の解決のため、以下の3つの基本方針を立て、中心市街地の活性化に取り組むこととする。

基本方針1「公共交通機関等が安全で利用しやすいまちづくり」

中心市街地は、多くの人が利活用し、また交流を図る場所である。そのため、中心市街地の安全性と快適性を高め、更に鉄道により分断された中心市街地の東西の交流・発展を図る自由通路を整備することにより、また、交通結節点として駅周辺を整備することによって、岩国市民やその周辺住民、岩国錦帯橋空港を利用するビジネス客・観光客など、あらゆる人が何度でも訪れたくなるまちづくりに取り組む。

基本方針2「活力と魅力あふれるまちづくり」

中心市街地には、本通商店街・中通商店街・中央通り商店街を中心とするいわゆる中心商店街や一定の商店が集積しているが、郊外型大規模小売店舗などの進出等により、売上の減少や空き店舗の増加など衰退の方向にある。

そういった既存の商店街の魅力向上や販売促進を進めるとともに、一方で、商店街地域の周辺にある居住区域に隠れ家的に存在している優良個店を有効に活用することにより、それらが連携して活発な経済活動が行われるまちづくりに取り組む。

基本方針3「みんなに優しく、にぎやかで楽しく歩き回れるまちづくり」

中心市街地には、過去に先人が築いた資産（都市施設）が集積しており、インフラ整備が進んでいる。

しかしながら、岩国市全体としては、人口減少・超高齢化社会を迎え、社会的な弱者にとっても、更なる安心で安全なコンパクトシティの構築が求められている。

また、近年地域住民同士のつながり不足やコミュニティ活動の低下が懸念されており、コミュニティの再生が求められている。

高齢者をはじめ中心市街地に居住している人も来街者も、みんなが楽しく歩き回れるまちづくりに取り組む。